


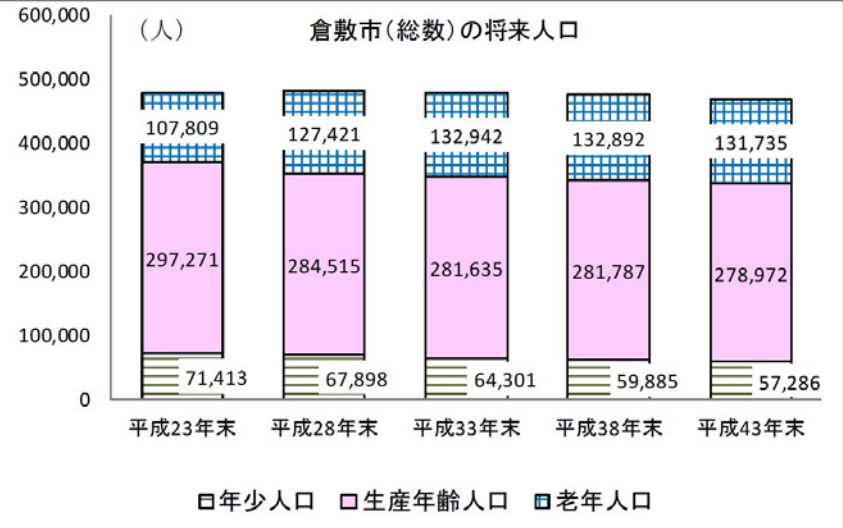
平成26年度特定地域再生事業費補助金事業の概要書

【テーマ：②ーイ】

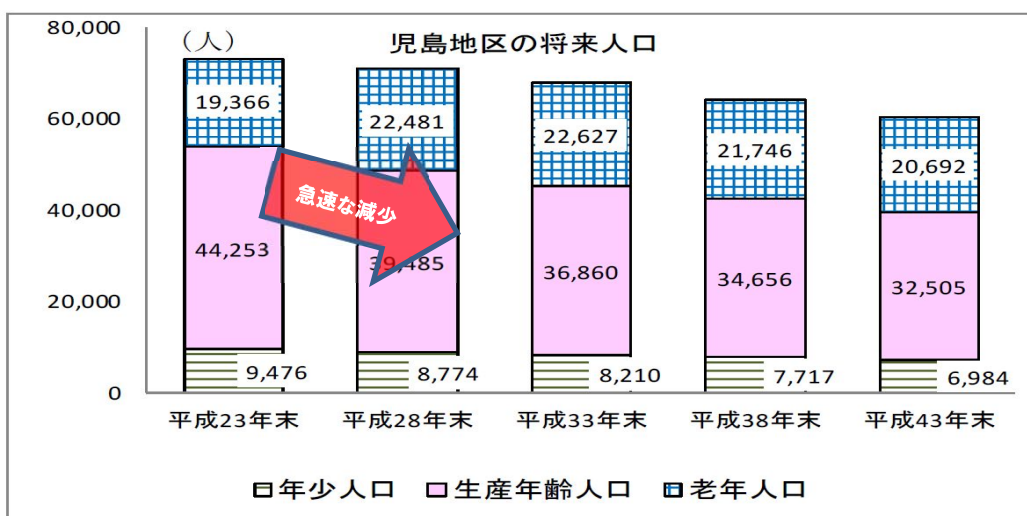
1 事業名	
メイド イン こじま 「Made in KOJIMA」せんいのまち再生計画策定事業 ～世界のバイヤーとファッション・リーダーが訪れる製品産地をめざして～	
2 事業主体の名称	
くらしきし 倉敷市	
3 新規・継続	
新規	
4 補助金事業の期間	
平成26年7月 ～ 平成27年3月	
5 特定地域再生事業費補助金の種類	
特定地域再生計画策定事業	○
特定地域再生計画推進事業	
6 要望国費	
9,331,280円	
7 事業の概要	
<p>倉敷市児島地区は、江戸時代の干拓による綿花の栽培以降「せんいのまち」として栄え、学生服では、現在も70%の全国シェアを占めるとともに、ジーンズでは、昭和40年に国産第1号を生産したことで「国産ジーンズ発祥の地」と称されている。</p> <p>しかし、昨今のアパレル(既製衣料)産業は、ファストファッション等海外から輸入された安価な商品に市場を奪われ、市場規模の縮小や国内生産拠点の整理統合など斜陽産業のイメージが強い。児島地区でも、かつての活気は失われ、中小・零細企業の倒産や廃業により事業所数は減少の一途をたどり、操業を続ける縫製工場でも、縫製工は人件費の安い中国を中心とする外国人実習生の姿が目につく。</p> <p>一方で新たな動きが“ジーンズ”から起こっている。これまで一般的であったOEM(他社ブランド製品の受託製造)ではなく、自社ブランドを立ち上げるメーカーが少しずつ現れてきており、商店街の空き店舗に小さいながらも工房兼店舗を構え、地場の紡績、織布、染色、縫製、加工を担う事業者と協力して“ものづくりへのこだわり”を持ってジーンズを生産しており、その品質と付加価値の高さが世界から注目を集め始めている。</p> <p>本事業では、“ジーンズ”の、“ものづくりへのこだわり”をきっかけに、これまで注目してこなかった地域の繊維産業全体に内在する未利用、又は利用度の低かった資源を調査研究し、地域の歴史や観光資源とも結びつけることで、「Made in KOJIMA」のブランド化を図り、児島地区が、「世界のバイヤーとファッション・リーダーが訪れる製品産地」として、①産業の振興による雇用の維持拡大が図られ、地域の人口減少に歯止めがかかる、②ブランド力を生かして、国内はもとより訪日外国人旅行者数が増加することで、地域が再生することを目的とする。</p>	

平成 26 年度特定地域再生計画策定事業の内容説明書

【テーマ：②ーイ】

1 事業（調査等）の名称																															
<p>メイド イン こじま 「Made in KOJIMA」せんいのまち再生計画策定事業</p> <p>～世界のバイヤーとファッション・リーダーが訪れる製品産地をめざして～</p>																															
2 事業主体の名称																															
<p>くらしきし 倉敷市</p>																															
3 地域の課題等																															
<p>(1) 人口や社会経済の状況</p> <p>①倉敷市</p> <p>倉敷市全体の人口は483,134人(平成26年3月末現在)であるが、将来人口推計では、平成28年度をピークに緩やかに人口減少のフェーズに移行する(岡山経済研究所)。</p> <p>生産年齢人口の減少とともに、高齢化率が上昇し、今後の持続可能な地域づくりのための行政経営が必要となる。</p> <p>美観地区に代表される観光都市として知名度が高いが、水島地区には製鉄、自動車、石油精製、石油化学を中心とするコンビナートが形成されており、地域経済の牽引役となっている。</p>																															
<p>【倉敷市全体の推計】</p> 																															
 <table border="1"> <caption>倉敷市(総数)の将来人口</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>年少人口</th> <th>生産年齢人口</th> <th>老年人口</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成23年末</td> <td>71,413</td> <td>297,271</td> <td>107,809</td> <td>476,493</td> </tr> <tr> <td>平成28年末</td> <td>67,898</td> <td>284,515</td> <td>127,421</td> <td>479,834</td> </tr> <tr> <td>平成33年末</td> <td>64,301</td> <td>281,635</td> <td>132,942</td> <td>478,878</td> </tr> <tr> <td>平成38年末</td> <td>59,885</td> <td>281,787</td> <td>132,892</td> <td>474,564</td> </tr> <tr> <td>平成43年末</td> <td>57,286</td> <td>278,972</td> <td>131,735</td> <td>467,993</td> </tr> </tbody> </table>		年度	年少人口	生産年齢人口	老年人口	合計	平成23年末	71,413	297,271	107,809	476,493	平成28年末	67,898	284,515	127,421	479,834	平成33年末	64,301	281,635	132,942	478,878	平成38年末	59,885	281,787	132,892	474,564	平成43年末	57,286	278,972	131,735	467,993
年度	年少人口	生産年齢人口	老年人口	合計																											
平成23年末	71,413	297,271	107,809	476,493																											
平成28年末	67,898	284,515	127,421	479,834																											
平成33年末	64,301	281,635	132,942	478,878																											
平成38年末	59,885	281,787	132,892	474,564																											
平成43年末	57,286	278,972	131,735	467,993																											
<p>(出典) 「倉敷市人口推計業務報告書」平成24年3月, 8頁</p>																															
<p>②児島地区</p> <p>地区人口は71,451人(平成26年3月末現在)で他の地区と比較して、急速な人口減少、高齢化が進行している地域である。</p> <p>その大きな理由としては、倉敷市の主要地場産業である繊維関連事業所が集積しており、その事業形態が労働集約的であることから、その好不況が、特に雇用の面で地域経済に大きく影響を及ぼしており、同地区繊維産業の衰退は、即、雇用縮小、人口減少につながると考えられる。</p>																															

【倉敷市児島地区の人口推計】

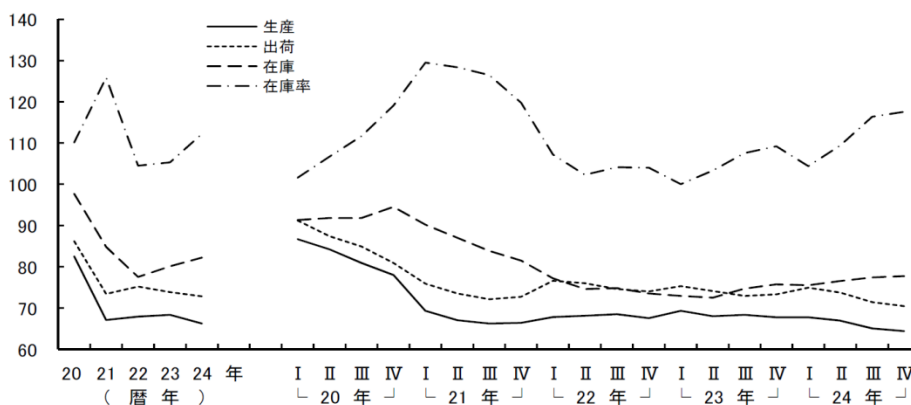


(出典) 「倉敷市人口推計業務報告書」平成24年3月, 14頁

実際に、国内繊維産業全体として、市場規模が縮小傾向にあり、児島地区の繊維関連産業においても、生産拠点の整理統合や廃業による事業所の減少、生産拠点の海外移転が見受けられ、こうした状況が、製造額の減少や、雇用の縮小につながっていると考えられる。また、若年層の繊維産業離れを含めた雇用の減少が、地域の高齢化の進行を加速させる原因となっていると思われる。

繊維工業の生産・出荷・在庫・在庫率の推移

(平成17年=100、季節調整済)



(出典) 経済産業省「繊維・生活用品統計年報」平成24年, 14頁

(2) 地域課題

① 繊維産業の衰退による関係事業所及び雇用(従業員)の減少と人口減少

先に述べたように、“せんいのまち”児島では、繊維産業が労働集約的産業であることから、その衰退が、即、雇用及び人口減少につながっている。

② 地域の繊維産業構造の把握

児島地区には、紡績・撚糸、織物・染色、縫製、それに加えジーンズの場合は洗い加工など、いわゆる“川上から川下まで”の各製造過程をそれぞれ担う事業者がある一方、複数の全過程を行う事業者もあるが、こうした業種や業態の全体把握ができていない。そのため、地域内での製造には大きな支障にはならないが、地域外や海外からの受注には障害となっている。

③ 蓄積された技能の検証と継承

紡績・撚糸、織物・染色、縫製、洗い加工等といった製造過程、あるいは、商品としての畳縁、足袋、作業着、学生服、ジーンズ、帆布等には、反復作業や試行の繰り返しといった長い経験の中で蓄積された“ものづくり”の技能が多く存在するが、その実態は調査・

検証されておらず、技能者の高齢化が進む中で、その継承の度合いも把握できていない。技能の習得や継承は、同一業種の事業者間での差別化の手段ともいえるが、持続可能な製品産地としての地域全体での取り組みが必要な時期にきている。

図表1 児島のせんい関連商品



④児島ジーンズのブランド力を活用したまちの活性化

児島地区の繊維産業における現在のフラッグシップ的商品は、別注品である学生服（標準的な量産品ではなく、発注者に対して企画提案を行い、使用の異なる製品を供給するもの。価格競争が発生しにくく、流行に左右されない安定需要がある反面、急激な需要増も期待できない。）を除くと、明らかに“ジーンズ”と言える。

ジーンズ関係事業者は、個別もしくはグループで、ジーンズストリート(地元商店街の空き店舗への出店・図表2)やジーンズヴィレッジ(近隣事業者の連携によるアウトレットや資料館の整備、産業体験ツアーの実施など・図表3)を企画・実施し、PRを行っているが、それらの動きと行政や他の関係事業者との連携は、必ずしも十分になされているとは言えない。地域再生の方向性としては、こうした取り組みの実績を活かし、更に拡大させることで「国産ジーンズ発祥の地 児島」の戦略的な地域ブランド化や、イメージの構築による繊維産業全体の振興を地域の再生へつなげていくことが重要であると思われる。

また、ジーンズのブランド力の強化による集客効果を、地域の他の資源と結びつけることで、観光産業の振興を図るなど地域の活性化を推進することが可能である。

図表2 (ジーンズストリート)



図表3 (ジーンズヴィレッジ)



⑤高等教育機関と繊維産業の連携

児島地区には、服飾美術学科を有する市立短期大学があり、これまでも、地域の繊維関係事業者へ人材を供給してきたが、近年は、定員割れこそ免れているものの、人気は低迷している。繊維産業界全体の閉塞感も影響していると思われるが、「せんいのまち」児島再生にとって、人材育成の点から大変重要な役割を担う施設であるが、地域が求める人材や技術を提供できているとは言えない。

(3) 地域資源

①古事記からはじまる1300年の地域の歴史・文化の蓄積

712年に編纂された日本最古の歴史書である「古事記」に記された「吉備の児島」は、日本で9番目の島として誕生したとされている。瀬戸内海の中ほどにあり、四国、また西国との海上交通の重要拠点であったこと、江戸時代の干拓によってできた土地には、塩分が多く含まれ稲作に適さなかったことから、綿花の栽培がおこなわれたことが現在の「せんのまち」児島へとつながっている。

このような「地域の歴史・文化」の内容やストーリーは、国内外に向けた付加価値を創造するための土台であり、それらを地域主体で掘り起こし、体系化することで、いろいろな切り口から魅力を紡ぎだすことができる大きな資源となる。

②地域の繊維産業に内在する未利用又は利用度の低い資源

○繊維産業の“川上から川下まで”の一貫した製造過程を担う事業者の集積

他の生産地の多くが生産機能の一部のみしか有していないことと比較して、児島地区は長い歴史の中で培ってきた川上から川下まで一貫した多様な産業・事業体の集積がある。また、こうした製造過程の「現場」そのものが、一般消費者やプロの好奇心を引き付ける魅力ある資源となりうる。

○各製造過程にある“ものづくり”のための専門機械や無形の技能の有用性

本物の作品・商品・製品には、それを紡ぎだす職人たちの脈々とした“ものづくり”の技能・思いが込められている。それが単なる工業製品としての画一的繊維製品・量産ジーンズと、児島産製品との決定的な違いとなる。それは、ジーンズにつながる、畳縁、足袋、作業着、学生服や帆布など、長い歴史で培われてきたせんい産業の集合体としての産業集積「産地としての魅力」が児島には存在する。

③繊維産業の振興に資する公共・民間施設等

JR児島駅前に立地する倉敷市児島産業振興センターや倉敷ファッションセンタービルは、「せんのまち」児島のブランド化を展開する拠点となる。このように、駅周辺や地域にある公共施設・公的施設および活用可能な民間施設等、既存ストックを有効活用することにより、持続的な事業・取り組みにすることができると考えられる。

④市立短期大学の人材育成力

繊維産業の振興に資するリカレント教育(学び直し、知識・技能の更新)を含む人材育成と技能継承の拠点となる。

⑤観光資源

倉敷市では、美観地区が観光地として有名であるが、児島地区にも繊維産業関係以外の資源として、以下のような観光資源も存在する。



瀬戸大橋



旧野崎家住宅



鷲羽山からの夕陽



町並み保存地区

4 調査等の作業フロー

調査研究

①古事記からはじまる1300年の歴史コンテンツの調査・体系化

②綿花づくりからはじまる、せんい・ジーンズの「川上から川下までの一貫生産」機能を備えた産業クラスターとしての特徴・技術・製品・サービス等の調査・体系化

戦略策定

③ものづくり、技術の伝承、承継のための人材育成戦略の調査、検討

④“Made in KOJIOMA”のブランド化。ブランド戦略の策定による繊維産業の育成

⑤観光・交流戦略の検討、調査

5 事業（調査等）の基本方針

（基本的な考え方）

倉敷市では「自然の恵みとひとの豊かさで個性きらめく倉敷」を基本理念に「第六次総合計画」に沿ったまちづくりを進めており、「地域の産業が時代の流れに対応し、活性化している」まちを目指している。本市には、高い技術力、高い商品開発力をもったオンリーワン企業が多く立地しており、地域資源の有効活用や、地域固有の技術力の向上による地域産業の活性化を目指している。

倉敷市児島地区では、市民、産業、行政が一体となって、共通の将来の夢を「ものづくり」と「まちづくり」と「くらしづくり」を連動させながら実現する「ファッションタウン構想」に基づき、まちづくりを推進している。

ファッションタウン構想に基づく様々の取り組みの結果、近年「国産ジーンズ発祥の地 児島」として、児島ブランドのジーンズが国内外で注目を集めるようになり、帆布製品等の確かな品質と技術が内外から高い評価を受けている。

また、地元商店街店主らが特色のある商店街を目指し、空き店舗解消に取り組んだ結果、児島味野商店街が「児島ジーンズストリート」として再生、活性化し、イノベーション意欲の高い技術者や、ブランドが地域に立地するなどして、休日には多くの来街者が訪れるなど、児島のジーンズ、繊維産業が注目されつつある。

一方で、ファッションタウン構想策定から14年が経過し、近年の経済グローバル化の加速、中国製品など安価な繊維製品の流入により、国内繊維産業全体は衰退傾向にあり、職人技術の喪失、産業の衰退が大きな問題となっている。そういった中、「安ければよい」時代から、「個性」「技術」「品質」等、付加価値のある商品が再評価されはじめるなど、児島繊維産業でパラダイムシフトが起きており、これまでとは視点が違う新たなまちのビジョンが必要となっている。

そのため、公民産学官金で構成する「Made in KOJIMA 戦略会議」で調査研究を行い、協議をしながら、地域課題を解決する戦略を策定する。

（方向性）

繊維産業の中でもアパレル産業（既製の衣料）が中心であった“せんのまち”において、それまで一般的であったOEM（他社ブランド製品の受託製造）ではなく、自社ブランドを立ち上げ、「個性」「技術」「品質」等の付加価値のある商品を製造しようとする「Made in KOJIMA」ジーンズの取り組みをきっかけとして、繊維産業全体に内在する未利用、又は利用度の低かった資源を調査・研究し、体系化することで“Made in KOJIMA”をブランド化するとともに、他の資源と結びつけることで、児島地区全体の再生のための計画策定をめざす。

（事業の視点）

- ① “Made in KOJIMA”のブランド化に向けた調査研究によるコンテンツ等の収集
- ② “Made in KOJIMA”のブランド化に向けたコンテンツ等を発展させ、或いは、持続可能なものとするための検討
- ③ “Made in KOJIMA”のブランド戦略として結びつける他の資源等の検討
- ④ “Made in KOJIMA”のブランド化の目的と手段に対する地域全体の合意形成

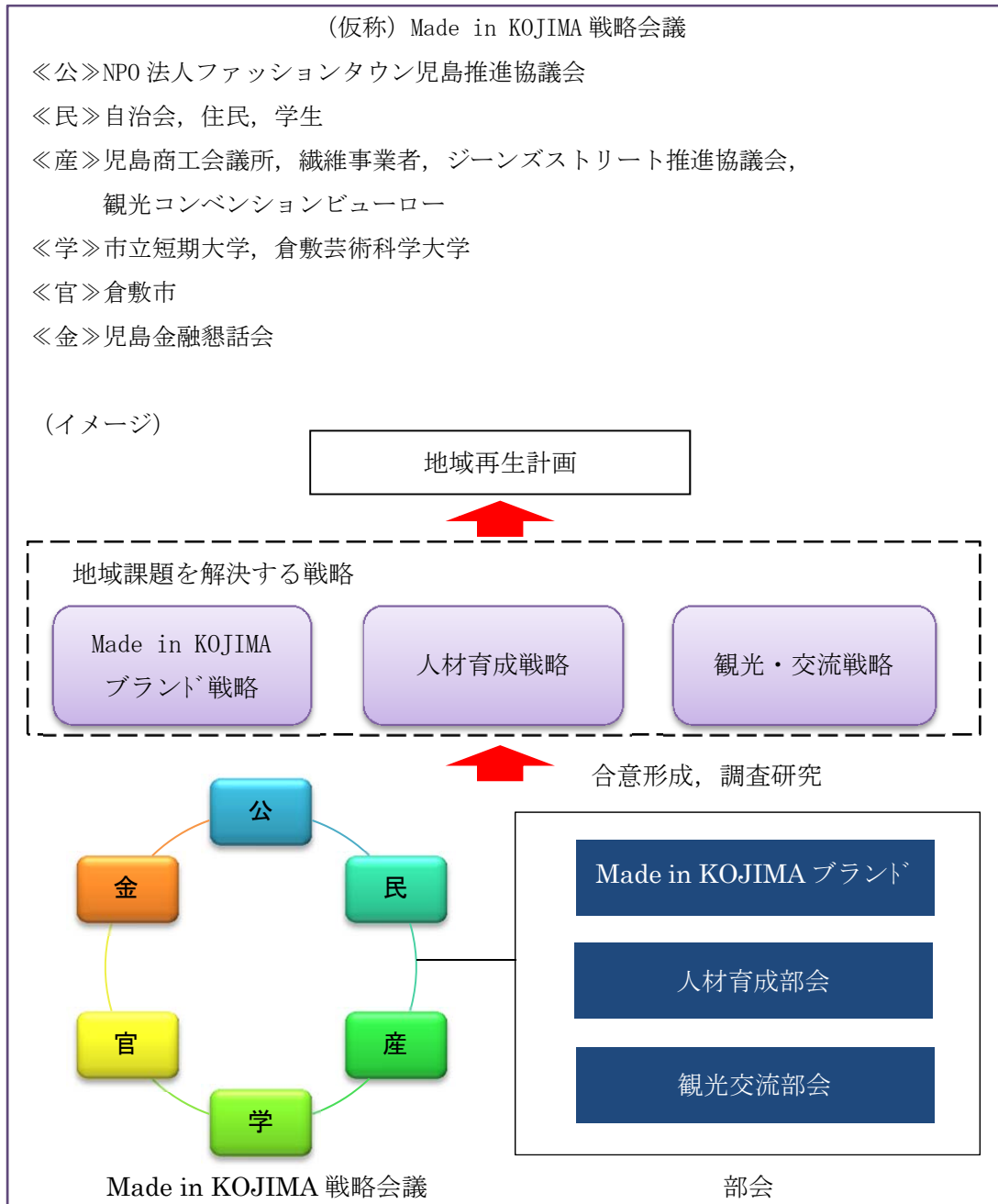
（めざすまちの姿）

児島地区が「世界のバイヤーとファッション・リーダーが訪れる」製品産地として

- 繊維産業の活性化による雇用の維持拡大を図られ、地域の人口減少に歯止めがかかるまち
- ブランド力を生かした訪日外国人旅行者数の増加するまち

6 体制

倉敷市を事務局とする協議会「(仮称) Made in KOJIMA 戦略会議」を設置。公民産学官金の各経済主体が参画し、調査方針について協議するとともに、地域課題を解決する戦略を立案する。



7 事業（調査等）の内容	
<p>7-1 対象事業 の内容</p>	<p>【調査研究】</p> <p>①古事記からはじまる1300年の歴史コンテンツの調査・体系化</p> <p>(1)古事記等の児島関連の記述・情報の調査・体系化。</p> <p>(2)北前船等による商業・歴史等の調査・体系化</p> <p>(3)組紐・足袋・学生服・ジーンズ・帆布等の産業発展の歴史調査・体系化</p> <p>②綿花づくりからはじまる産業クラスターとしての児島繊維産業（紡績，撚糸，織物，染色，縫製）の特徴・技術・製品・サービス等の調査，体系化</p> <p>(1)現在の児島の繊維産業・事業所に関する実態調査・分析</p> <p>(2)特色ある業種・業態・事業所に関する詳細調査 (ヒアリング，フィールド調査3か所程度)</p> <p>(3)現在のせんのいちのまち児島の職人・経営者・仕事人のリストアップ，職人たちのプロフィール，技術，こだわりの「見える化」 (グループインタビュー1回，アンケート調査（100件）の実施)</p> <p>(4)地元教育機関や事業所等を通じた職人たちのソーシャル・ネットワークの実態調査（ヒアリング3件程度）</p> <p>(5)せんのいちのまち 児島の職人・人材データベースの作成</p> <p>【合意形成・戦略の策定（Made in KOJIMA 戦略会議，各部会での協議）】</p> <p>③ものづくり，技術の伝承，承継のための人材育成戦略の研究，策定</p> <p>(1)地域の大学等と連携した人材育成プログラムの検討</p> <p>(2)技術伝承のための職人育成講座の企画，検討</p> <p>(3)繊維事業承継セミナーの実施による人材マッチングの検討</p> <p>④Made in KOJIMA ブランド戦略の研究，策定</p> <p>(1)国産ジーンズ発祥の地を切り口にした表彰制度や資格認定制度，トップフォーラム等の仕組み検討</p> <p>(2)繊維産業を活かしたまちのブランド戦略の検討</p> <p>⑤観光・交流戦略の研究，策定</p> <p>(1)他都市産業観光の実態調査，研究 視察先：石川県金沢市，愛知県一宮市</p> <p>(2)観光コンベンションビューロー，倉敷芸術科学大学と連携した産業観光商品の企画，開発</p> <p>(3)シティセールス戦略，手法の検討</p>
<p>7-2 独自性</p>	<p>本事業は，地場産業（繊維）という第2次産業を地域資源としている点で，これまで実施している特定地域再生事業とは異なり，独自性があると言える。本事業の実施により，地場産業再生に向けた地域再生計画の事例を示す。</p> <p>本申請は，倉敷市域内の児島地区において，住民の雇用の受け皿であり，</p>

	<p>地域の経済の生命線ともいえる繊維産業において、今後、更に市場規模の縮小が懸念されること、従事者の高齢化が加速するとともに新規参入が期待しにくいこと、国際競争力の低下が想定されることなど、地域の存続・再生において、大きな課題であると認識した上で、その繊維産業に内在する未利用又は利用度の低かった資源を活用することで地域の再生を図ろうとするものでこれまでの事業にはない試みである。</p> <p>また、地域内の中小・零細事業者が始めた「Made in KOJIMA」という“ものづくりへのこだわり”を地域産業全体に波及させ、ブランド化を図ろうとする民間発による、民間の資源を活用した取り組みを住民はもとより行政や大学が連携して実現しようとする事業であることから、独自性が高いといえる。</p>
--	---

8 評価項目に対する内容	
8-1 国策への寄与	<ul style="list-style-type: none"> 我が国は現在、少子高齢化の進行する中で生産年齢人口が減少するとともに、海外生産シフトによる製造業の雇用減少の流れの中にあり、地域経済の疲弊が指摘されている。 政府の経済政策の成長戦略である「日本再興戦略」において、地域の経済主体が地域資源を活用し、外部効果を伴う新規事業を掘り起す「地域経済循環創造事業」を重点的に推進している。 日本経済を再生し、産業競争力を強化することを目的とした「産業競争力強化法」が、平成26年1月に施行され、さまざまな支援策で国内産業の競争力強化を目指している。本事業は、衰退する地場産業の再生を目指し、優れた“Made in KOJIMA”の発信、国内産業の競争力強化につながる事業である。
8-2 取組の先駆性・モデル性	<ul style="list-style-type: none"> 近年、メイドインジャパンといった優れた日本のものづくり技術が注目されている。海外生産の安い繊維製品に、国内の繊維産業が対抗するためには、製品そのものの品質だけの向上だけではなく、産業にかかわる“文化”や“歴史”といった未利用の資源の活用が必要である。 今回、我が国の繊維産業の拠点である児島繊維製品等について、大規模な調査を実施することにより、安価な海外繊維製品と差別化が可能になると考える。このことをきっかけとした事業の推進により、地域産業の活性化、人材の確保、技術の伝承につながり、地域経済活性化、地場産業のブランド化のモデルになりうる。 倉敷市立短期大学や、倉敷芸術科学大学が地域活動を行うだけでなく、大学を卒業した学生が、地域産業を担う存在となるモデルになりうる事業であり、先駆性がある。 繊維産業における下請けから脱却し、長い歴史と優れた技術を活かした製品のブランド化による児島繊維産業全体の活性化は、先進事例となりうる。
8-3 多様な主体	<ul style="list-style-type: none"> 公（NPO法人ファッションタウン児島推進協議会）、民（自治会、住民、学生）産（児島商工会議所、繊維事業者、児島ジーンズストリート協議会）、学（倉敷市立短期大学、倉敷芸術科学大学）、官（倉敷市）、金（児島金融懇話会）の

	<p>多様な経済主体が協力，連携して事業を推進することにより，地域経済の循環に向けた取り組みが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施にあたっては，本市の地域資源である大学を活かした域学連携（地域と大学の連携）や産官学連携を推進するなど，学生が地域活動する場を提供できる。 ・調査の過程を通じて，各主体の横断的な連携関係を構築し，今後の新たな事業展開につなげることが可能。
8-4 熟度	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維産業（ものづくり）を活かしたまちづくりは，2000年に策定した「ファッションタウン基本構想」，2001年の「ファッションタウン児島ビジョン」に基づき推進しており，地域がまちづくりの方向性について共有できている。 ・また，児島ジーンズについては，繊維事業者が中心となった【「白・藍・糸・紡」せんい児島ジーンズ巡りプロジェクト実行委員会】が，児島の観光資源と産業資源を活かすため，地場のジーンズや繊維製品のプロモーションのほか，収穫・見学・体験などの産業観光の立案・実施・プロモーションを実施してきているなど，実績がある。 ・本提案においても，産学官が意見交換を重ねて策定しており，事業実施段階において，事業をスムーズに実施可能である。 ・ジーンズ議会の開催など，官民が一体となった取り組みが進められている。
8-5 その他	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市は，「国産ジーンズ発祥の地」としてだけではなく，洗い加工では，世界一の技術がある。 ・ジーンズストリート等には若い人材なども入ってきており，変化への兆しが見えつつあるが，それを児島地区全体に広げていくためには，特定地域再生事業による一層の取り組みが必要不可欠である。
9 活用する規制の特例措置の内容	
<p>今後，“世界のバイヤーとファッション・リーダー”をはじめとする訪日外国人受け入れ策として国家戦略特区「歴史的建築物の活用」を検討する。</p>	
10 スケジュール	
	平成 26 年度
年月	7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
項目	
①歴史調査	→
②産業調査	→
③人材育成	→
④ブランド	→
⑤観光交流	→
協議体	○ ○ ○ ○ ○
11 事業費（調査費）	
要望国費	9, 332千円
12 その他	

・倉敷市では、「Made in KOJIMA」に取り組む児島地区の繊維事業に対する支援の一環で、海外での販路開拓を促進する試みとして、昨年2月と今年1月の2度にわたって、パリで小規模ながら独自で展示会を開催し、事業者とともに市長がトップセールスを行っている。今のところ、大きな商談にはつながっていないが、少しずつ引き合いもあり、継続して支援を続ける予定である。

めざすまちの姿(工場を視察する海外のバイヤー)



継承すべき技能



- ① 手のみ裁断
- ③ Tシャツプリント

- ② 本藍染
- ④ ジーンズユーズド加工

過去のまちづくりビジョン

